

無所属36歳



発行人 小林伸行 小林のぶゆき 検索
住所 〒239-0841野比2-13-18
☎ 070-6640-3927
FAX 046-801-2177
✉ info@kobayashinobuyuki.com ↑
Web http://kobayashinobuyuki.com
野比在住。1975年(昭和50年)9月3日生。
筑波大学卒。地域情報誌と環境コンサル
ティングに携わるが、地域の疲弊と日本の
将来を憂い、政治を志す。政策秘書試験
合格後、衆議院議員長島一由(前逗子市
長)公設秘書として修行し、2011年4月より
横須賀市議会議員。地域通貨イタッチ事
務局長など、市民活動にも関わる。

第一特集

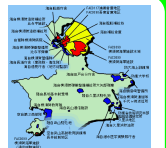
横須賀と基地。

横須賀市にとって米軍や自衛隊の影響力はどのくらい大きい？

第二特集

ヨコスカ給食白書④

中学校給食へ、動き出す近隣市町村。
気づけばピリ。周回遅れの横須賀市。



第一特集

横須賀と基地。横須賀市にとって米軍や自衛隊の影響力はどのくらい大きい？

横須賀といえば……？

横須賀といえば「基地のまち」、というのが外から見たイメージのようですね。ちなみに、(株)ブランド総合研究所「地域ブランド調査2011」の結果では、1000市町村中、横須賀は30位！県内では4位で、ライバル藤沢市に大差をつけ(笑)、意外と知名度が高いことを改めて感じます。軍港があることによる様々なイメージが歌謡曲でも歌われてきましたが、それが全国にも知れ渡っているのかもしれませんが、

基地のインパクト

基地に対する横須賀市民の思いは複雑で、「基地賛成」とか「基地反対」とか軽々しく言えるようなものじゃないと思います。私は、長期的には平和を前提に「基地はないほうがいい」という立場ですが、短期的には安全保障や基地で働く方々を尊重する必要があると考えています。

基地を肯定的にとらえる人も否定的にとらえる人もいます。ただ、米軍と自衛隊が横須賀市には大きなインパクト(影響力)を与えていることは、誰もが認めるでしょう。そこで、色々な数字から横須賀と基地を改めて見直してみたいと思います。

人口

横須賀市内に暮らす米軍関係者は約12,878人。これは全市町村中、沖縄市14,950人に次ぐ第2位です。基地内に2/3、基地外に1/3が居住します。*

自衛隊関係者では、隊員・防衛大生・工科学校生等、約1万4千人在勤で、何割かは市内に家族も含め居住の様様です。

雇用

市内の、米軍基地で働く従業員は5198人*2(うち約3千人が横須賀市民)、自衛隊員等は約1万4千人と言われます。雇用数で

順位	市区町村	魅力度
1	札幌市	57.0
2	函館市	56.7
3	京都市	54.9
4	横浜市	51.7
5	神戸市	50.1
6	富良野市	48.3
7	鎌倉市	47.8
8	小樽市	47.3
9	金沢市	40.7
10	奈良市	39.2
26	箱根町	32.0
30	横須賀市	29.5

市内居住の米軍関係者数

軍人	7,707
軍属	513
家族	4,658
計	12,878

*1: 在日米軍人等の施設・区域内外における市町村別居住者数(2011年3月31日時点)
その他、正式な数は非公表だが1万人近くの艦船の乗組員がおり、ここには含まれない

*2: 2012年5月時点。全駐横須賀支部提供情報

YRP&通研の計約5800人、市職員3206人、日産追浜工場の約2700人よりも多く、最大の働き口が基地ということになります。

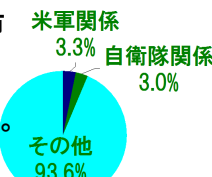
税収

「もし基地がなかったら市に固定資産税等がいくら入るハズなのか？」という観点で、国に穴埋めしてもらう制度が、基地交付金(19.2億円)と調整交付金(2.2億円)。年間に合計21.5億円になります。これは横須賀市の歳入の1.5%となります。*3ただし、本来なら産業立地などに最適だった場所が基地になってしまったわけで、十分な額には程遠いと思います。

土地の面積

米軍関係の施設面積は約3.4km²で、横須賀市の面積100.7km²の約3.3%。また、自衛隊関係の施設面積は約3.0km²で、横須賀市の約3.0%。合計で市域の約6.4%が提供されています。

↑横須賀市所在米軍施設及び自衛隊主要施設位置図(横須賀市HPより引用)



今後、どう基地と向き合っていくのか？

このように、「基地のまち」と言われるだけあって、人口や雇用の面では、横須賀にとって基地の影響力は大きいことがわかります。一方で、税収や土地開発の制約という面では、基地のメリットもデメリットも今や大きくないと考えます。

ここから、私は今後2つのことが焦点になると考えています。第一に、基地が移転・縮小されたとき、いかに雇用をまもるか。「駐留軍関係離職者等臨時措置法」の再延長や恒久法化を求めていきます。第二に、基地の消費力をどれだけ市内に取り込むか。基地内の工事等の入札では市内業者が受注し易い制度に変更されましたが、*4十分に活用されていません。人口減少による経済の落ち込みをカバーすべく、基地関係者に市内で消費してもらう方策にも力を入れていきたいです。

*4: 前市長と商工会議所が南関東防衛局にかけあって、地域評価型の入札制度が導入された

第二特集 ヨコス力給食白書④

中学校給食へ、動き出す近隣市町村。
気づけばピリ。周回遅れの横須賀市。



横須賀市を活性化するには？

人口が減る一方の横須賀市。このま
を元気にするには、どうすればいいのか？
民間の役割、市民の役割、それぞれありますが、根本的には1人でも2人でも子供(を育てる世代)を増やすことが重要。これは行政の役割です。子育て世代(生産年齢人口)は、子供のためにせつせと消費するし、稼がなきゃいけないので、経済活性化には大切。もし「横須賀は子育てしやすい!」というブランド化ができれば、子育て世代が引っ越してくるかもしれないし、「よそに引っ越そう」と思ってた人が思い留まるかもしれません。

近隣市町村で相次ぐ、中学校給食に向けた動き

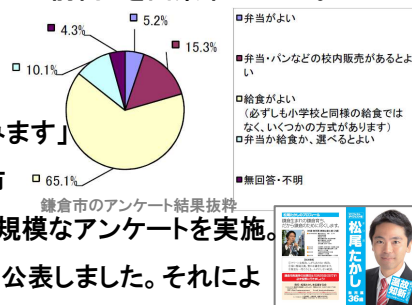
そのためには、保育園の拡充でも、小児科や産科の充実でも、学童保育費の負担軽減でも、やれることは何でもやるべきです。特に中学校給食は、全国では82%が実施していますが、近隣では三浦市だけ。「他市と差別化できるので、横須賀市は早く導入すべき」と、ずっと主張してきました。ところが、私の目論見はもろくも崩れてしまいました(苦笑)。近隣市町村で、中学校給食に向けた動きが相次いでいるからです。

●逗子市

この新聞の第2号(2011年2月発行)でも、逗子市が2014年までに導入すべく準備を進めているとお伝えしてきました。現在、順調に導入見込みで、むしろ前倒しを画策中とのこと。

●鎌倉市

松尾崇市長がマニフェストに「中学校給食の導入に取り組みます」と掲げていることもあり、鎌倉市では生徒や保護者を対象に大規模なアンケートを実施。その調査結果を2012年4月に公表しました。それによ



ると、小6の保護者の65%が給食を希望し、弁当と給食の選択制も10%が希望で、合計すると75%。中2の保護者は給食希望が54%で、選択制希望は14%で、合計68%。いずれも7割前後が給食もしくは選択制を望んでいることとなります。今後、検討委員会を開き今年度中に方向性を示すとのこと。

●葉山町

2012年1月の町長選で、マニフェストに「弁当か給食か選択できる中学校給食の導入をめざします」と掲げた山梨崇仁町長が勝利。2009年から町職員による検討会議はありましたが、町長選以降はPTA会長など外部の委員も交えた拡大検討会議を開催。具体化に向かってます。

●横浜市

2011年12月にアンケートと意見交換会を実施。結果を受け、①温かい弁当、②栄養士のついた弁当、③大手宅食会社の3パターンで、モデル事業を6校で6/25~7/13に実施。給食ではなく、横浜方式の中学校「昼食」を検討するとのこと。

「三浦半島・中学校給食レース」の予想は？

というわけで「三浦半島・中学校給食レース」は、既に導入済の三浦市が首位とすれば逗子市がほぼ2位確定です。3位争いは、鎌倉市が早いか葉山町が早いか、いずれかが制するでしょう。一方、三浦半島の盟主?横須賀市では、中学校給食は検討のテーブルにすら上ってません。図体(人口)が大きいから動きが鈍いのか? いや、それなら横浜市のほうが不利なはず。近隣市町村にスピード感があるのは、市長の認識と資質の差ではないか? 私は最近、そう思い始めています。

今年4月、横須賀市の人口は藤沢市に追い抜かれました。その藤沢市も中学校給食の検討に入っています。こうやります差が開きます。以上、給食問題のその後をご報告しました。

編集後記

6月3日(日)に「横須賀ハコモノ研究会」第1回を開催し、予想を大幅に上回る多数の方にご参加を頂きました! この場を借りてお礼を申し上げます。
第1回ということで「共通理解があったほうが、話がしやすいのでは」と思って、私からの話題提供を念入りに行いましたが、議論する時間が少なくなってしまいました。次回、第2回は参加者間の議論を中心に実施したいと思います。下記の通り行いますので、どうぞご参加ください。一緒に、横須賀市の未来像を語り合しましょう!

- ・日時: 2012年9月2日(日) 10:00~12:00
 - ・場所: 産業交流プラザ 第一研修室・資料代 100円
- ※私の後援会的活動ではありません。どなたでも参加頂けます。

資料準備の都合上、お越しくださる方はできればご連絡頂けると助かります。来られない方も、次回のご案内などをお送りしますので、ご関心あればご連絡ください。



応援してください!

- チラシのポスティング
- 駅でのチラシ手配り
- ご自宅への看板設置
- 学生インターン

常時、様々な手が必要です。「応援してあげてもいいよ」と思って下さった方は、お気軽にご連絡下さい。

※政治献金・寄付は頂いていません。

横須賀市政について、私の活動について、みなさまのご意見、ご提案、ご感想、疑問などお寄せください。
必ず私、小林伸行が自分で目を通します!

E-mail: info@kobayashinobuyuki.com Fax: 046-801-2177

小林のぶゆきの基本政策

見える 誰が何をどう決めてるのかわかんない……。

市政をガラス張りにして「見える化」し、意思決定の過程も含め情報公開を進めます。

わかる 難しい説明をされてもよくわからない……。

いま何が問題なのか。いま何が必要なのか。チラシなどを通してわかりやすくお伝えします。

変わる これまで何も変わらなかった。どうせ変わらない……。

現状が見え、問題がわかれば、変えられます。私たちが払った税金が、私たちに本当に必要なことに使われるよう、変えていきます。

今こそ横須賀を 私たちのものに。



↑私が議員秘書だった頃、一緒に政策論議をした山梨さんも、いまや町長に。

イラスト提供 わんぱぐ <http://ids.wanpug.com/>